

<全体分析>

試験時間

90分

解答形式

記述式（一部客観式）。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

2023年度は読解総合問題 [I]と[II]の総語数は 1,549 words だったが、2024年度は読解総合問題 [I] [II]と英作文問題 [III]の総語数は 1,887 words となり、340 words 程度増加。問題の難易は「やや難化」となった。

出題の特徴や昨年との変更点

(特徴)

- ・読解総合問題 2 題と自由英作文 1 題という構成は昨年と同様である。
- ・和訳、英作文を中心とする国公立大型の記述式問題と、私立大型の客観式選択問題で構成されている。
- ・英文和訳問題では、英文の正確な構造把握をベースにした自然な日本語訳が求められている。また、その多くで指示語の明示が求められている。
- ・内容真偽問題においては、本文の内容から判断できないものと、本文の内容に矛盾するものの区別が求められている。

(新傾向)

- ・[I] 【読解総合】問 8 英文の内容を英語で説明する問題。
- ・[III] 【英作文】読者からの手紙（英文）が添えられており、手紙の中にポイントを読み取り、回答をする形式。

(昨年との変更点)

- ・昨年【読解総合】で 3 題あった語句整序問題が姿を消した。
- ・[III]の自由英作文の指定語数は、ここ数年 100 語以上で安定していたが、今回は 100 語程度となった。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	読解総合	「モンテビデオでの淡水の枯渇」(974words)	<p>問1 条件付き和訳問題。(代名詞 it の指示内容明示、分詞構文、関係詞、end up in A の訳出)</p> <p>問2 品詞変換問題。文構造を理解して単語の品詞を適切な品詞に変換する。</p> <p>問3 動詞の語形を適切に変える問題。文脈を理解して空所に入る動詞を選択して適切な形に変える。</p> <p>問4 条件付き英訳問題。(関係詞を用いて二つの文をつなげる条件が付されている)</p> <p>問5 英訳問題。</p> <p>問6 説明問題。(二つの理由について、それぞれ 40 字以内の字数制限が付されている)</p> <p>問7 和訳問題。(has rewritten that comforting story の訳出に注意)</p> <p>問8 英文の内容を英語で説明する問題。</p> <p>問9 和訳問題。(took issue with A、分詞構文、that 節の並列の訳出)</p> <p>問10 条件付き和訳問題。(all of them の内容明示、分詞構文、as ... as の訳出)</p> <p>問11 条件付き和訳問題。(代名詞 it の指示内容明示)</p> <p>問12 条件付き説明問題。(代名詞 they の指示内容明示と理由の説明)</p> <p>問13 内容真偽問題。C (読み取れないもの) を含む設問。2. は can be fatal かどうかが本文内容から明確に読み取れない。</p>	やや難
[II]	読解総合	「健康的な食事が心の健康に与える影響」(803 words)	<p>Q1 客観式問題。文脈を理解して空所に入る副詞/接続詞を選択する。</p> <p>Q2 客観式問題。下線部と同意の動詞を選択するが、適切な形に変える必要はない。</p> <p>Q3 和訳問題。(同格、much the way の構造理解)</p> <p>Q4 説明問題。</p> <p>Q5 客観式問題。(文脈に合う名詞を選択する)</p> <p>Q6 英訳問題。</p> <p>Q7 前置詞補充問題。</p> <p>Q8 和訳問題。(not A but B、see if... の意味理解、spur O to do の意味、exercise と improve の共通関係)</p> <p>Q9 条件付き説明問題。(which の内容と理由の説明)</p> <p>Q10 客観式問題。本文の空所に英文を補充する。</p>	やや難
[III]	英作文	自由英作文「カンニングした宿題」(110 words)	ワシントン・ポストに掲載されている Dear Abby というコラムの一部。Dear Abby はアメリカの新聞で最も人気のあるアドバイスコラムの1つで、読者からの悩みについて回答者となったつもりで返信を書く問題。読者からの手紙が添えられており、その中にポイントを読み取り、手紙に対して回答する形式。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

例年、大問構成に多少の変化が見られるものの、下線部和訳と英訳、内容説明、及び自由英作文が設問の中心であることには変わりはない。英文を読む量も大切だが、英文の構造を正確に理解する力をつけることが肝心である。なお、基本的な文法・語法・イディオムなどの出題は姿を消しているが、この点もしっかり学習しておくといよい。ここ数年、読解問題のテーマは、医学・医療だけでなく人文・社会などさまざまな分野に及んでいるので、本学部の過去問はもちろんのこと、記述問題を中心とした国公立大型の学習を積む必要があるだろう。自由英作文については、状況を説明したり、個人的体験や好み、また社会問題に対して自分の意見を主張したりするなど、さまざまなテーマを設定して、100語以上の長さの英文を書く練習を重ねていく必要がある。日本語、英語ともに記述量が多いので、解答を作成する実戦演習が合否を決定すると言えるだろう。